

王亮 王求 亲斤 幸段

# うなずき、耳傾けて

大震災被災者の県内への避難が増えている。県民が被災者と身近に接する際、心にとどめておくことは何か。現地に足を運び、住民の心のケアに当たった琉球病院(金武町)の村上優院長に聞いた。

ほとんどの被災者は生活再建のため、不便な生活であっても情報が集まる自分の街にとどまってお

## 被災者への対応

村上・琉球病院院長に聞く



専門家でも専

り、縁故もない場所に避難できる時期ではないだろう。地域社会が濃密であるほど、そこから外れる不安もすこく大きい。現段階で沖縄まで避難してくる被災者は、経済や情緒面である程度頼ることができる血縁のある人が多いと思う。

門家でなくても大事なものは、その人が話し始めたら黙って耳を傾けること。何か引き出そうとせず、不用意に言葉を掛けず、うなずきだけでいい。そして、最後まで聞き続けること。災害を生き延びたことへの尊敬も大事だ。

沖縄が戦争の苦しみを越えていった時と同じだろう。生き残った人が雄弁に語れるわけでなく、聞いた人は雄弁に言葉を返すわけでもなしに、ただひたすら耳を傾けた。隣人を普通に受け入れる気持ちでいい。言葉を使わないほうが伝わることもある。

(談)